

# 經濟論叢

第140卷 第1・2号

---

社会の共同資産と財政学……………	池 上 惇	1
日本における結婚費用とそのための 貯蓄……………	チャールズ・ユウジ・ホリオカ	17
金輸出再禁止以降の日本の貿易……………	奥 和 義	32
シスモンディ・ロマン主義の再検討(下)……………	長 岡 延 孝	56
先進国—後進国間関係と国際価値論……………	小 倉 明 浩	73
資料紹介		
ヴィーン大学講義目録における オーストリア学派……………	八 池 木 田 紀一郎 幸 弘	89

---

昭和62年7・8月

京都大學經濟學會

## 《資料紹介》

## ヴィーン大学講義目録におけるオーストリア学派

八 木 紀 一 郎

池 田 幸 弘

## 〔解説〕

## は じ め に

ドイツ語圏の大学は、各学期ごとに「講義目録」を発行し、学生たちはそれをもとに聴講の計画を立てる。解説者の一人（八木）は、1980年にヴィーン大学を訪れたさいに、大学のアルヒーフにこうした講義目録 *Öffentliche Vorlesungen an der K. K. Universität zu Wien* (Wien: K. K. Hof- und Staatsdruckerei) が過去に遡って保存されていることに気がついた。この講義目録は、R. S. Howey が1876年から1889年にかけての経済学関係講義を整理したときや<sup>1)</sup>、W. Weber がヴィーン大学におけるオーストリア学派の活動の回顧を執筆したときに利用されているが<sup>2)</sup>、Howey のそれは時期がきわめて限定されており、また W. Weber のそれは講義そのものについてのデータを提供していない。

1985年に八木は、この講義目録のうち、「法—国家学部」の部分のコピーを、1849年冬学期から第2次世界大戦末の1944年にわたって入手し、その整理について池田の協力を求めた。この紹介は、池田がまず予備的な整理をおこなったあと、八木がそれについて助言をおこなったので、責任は両名で負うのが適当であろう。なお、スペースに限定のある本紹介においては、オーストリア学派研究という視点から、とりあげられる学者についても年代について限定が加えられており、1860年冬学期から1939年冬学期までが紹介の対象とされている<sup>3)</sup>。他の学者を含めて、私たちが入手した資料中に含まれる経

1) R. S. Howey, *The Rise of Marginal Utility School 1870-1889*, Lawrence, Kansas, 1960.

2) W. Weber, "Hundert Jahre österreichische Schule der Nationalökonomie an der Wiener Universität", *Studien zur Geschichte der Universität Wien*, Bd. 2 (1965).

3) ナチス治下の1940年以降は講義目録の形式の変更もあり、今回の紹介の対象から除外されている。また、1874年夏学期、同冬学期については私たちは資料を入手することができなかった。

済関係講義題目(原タイトル)のすべては、現在準備中の本学の Working Paper によって、近い将来に提供可能である。また、ウィーン大学の学制やその中で経済関係講義の持つ社会的意味等については、近く刊行予定の八木の『オーストリア経済思想史研究』(仮題)の補論で論じられる。

以下では、まず全体をいくつかの時期に分けて簡単な解説を加える。そして、つぎに前述の講義目録に依拠しつつ、オーストリア学派研究の立場からそれを整理したものを掲載し、読者の参考に供したい。

### メンガー革命前夜

講義目録がまず私たちに伝えることは、メンガー以前のこの大学での経済学の状況である。その中では、とくに「国民経済学」を担当したシュタイン、ヒンゲナウ、ハスナー、シェフレの4人が重要であろう。ヘーゲル哲学から出発して、国家が階級国家ではなく社会国家になることを求めたシュタインについては、我が国においても幾つかの研究が存在するが、他の3人に関しては研究は皆無に近い。

シュタインの講義は長期間にわたっていて、またその内容もきわめてヴァラエティーにとんでいる。しかし彼の関心の中心は「法哲学」および「行政学」にあり、経済関係の科目は周辺的なものでしかなかったであろう。ハスナーは1848年革命以来、自由主義にコミットしていた学者だが、アウエルスベルグ“ブルジョア内閣”に文相として参画する。彼は、「法哲学」「財政学」の講義も担当していた。シェフレはこれと対照的に自由主義の批判者として社会主義に到達するが、ホーエンヴェルト保守内閣に商務大臣として参画する。シェフレは、「国民経済学」のほか銀行論や貨幣制度論についての講義をおこなっている。またヒンゲナウについては、鉱山制度の専門家であったことが目録からもわかる。

### メンガー

メンガーは、1872年冬学期から教壇に立っているが、最初の講義の題目は「銀行制度と貨幣制度」であった。この事実は大変興味深い。というのも、貨幣論はメンガー体系の支柱の一つであり、彼は後にオーストリアの金本位制移行にさいして通貨事情についての一連の論文を書くことになるからである。

メンガーは主として「国民経済学」と「財政学」の担当者であった。メンガーは、1875年冬学期からゼミナールを毎年開講しているが、その領域もやはりこの二つであった。その意味では、メンガーは彼以前の「国民経済学」担当者とはことなり、「国家学者」ではないプロパーの「経済学者」のはしりであるといえるだろう。なお、メンガーが担当した「国民経済学」と「財政学」の双方とも、石版刷の講義録が残っている<sup>4)</sup>。

### ベーム＝バヴェルクとヴィーザー

ベーム＝バヴェルクの名が講義目録に最初に登場するのは、1880年の夏学期である。その秋には彼はインスブルック大学に移ってしまうが、10年後には大蔵省の幹部としてウィーンに戻り、「名誉教授」として公務の合間を縫って断続的にゼミナールを開講している。公務を離れての大学への復帰は、1905年夏学期からである。大蔵大臣を辞任したばかりのベームの開講したゼミナールに、パウアーやヒルファーディングのオーストロ・マルクス主義者が参加して激しい討論がおこなわれたことは、あまりにも有名である。ベームはその講義を「国民経済学」に限定していて、「経済政策」「財政学」の講義はおこなっていない。なお、ベームの「国民経済学」についても講義録が残っている<sup>5)</sup>。

ヴィーザーの講義はベームと対照的で、「国民経済学」「経済政策」「財政学」から「貨幣論」、そして社会学から歴史哲学的なものにまで及んでいる。とくに晩年においては、「社会理論」「歴史における勢力」「現代における勢力機関と勢力闘争」等の社会学・歴史哲学的講義に重点がおかれており、晩年の彼の関心の移動の方向を講義目録からも確認することができる。

後のオーストリア学派の展開を考えると、ベームに発する流れとヴィーザーに発する流れは区別した方がよいかもしれない。ヴィーザーの後を襲ったのはハンス・マイヤーであるが<sup>6)</sup>、ミューゼス、マハルプ、モルゲンシュテルンらのマイヤー評価には大変厳し

4) 八木紀一郎「オーストリア学派創始者達の関係資料の現況」、『岡山大学経済学会雑誌』、第14巻第3・4号、1982年。

5) 八木前掲論文。なお、ベームにはこれと別の初期の「国民経済学」講義録(Earlier Lectures of Economics by Böhm-Bawerk, transcribed and introduced by Shigeki Tomo, 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 13. (1987)) も残っている。

いものがある<sup>6)</sup>。この点をもっともあからさまに述べているのはミーゼスであるが<sup>7)</sup>、ミーゼス自身はベームの流れに属すると考えてよいであろう。ハイエクはヴィーザーを my teacher と呼び敬意を表しているが<sup>8)</sup>、もちろん Privatseminar 等を通じてミーゼスの影響をも強く受けているから、ベームとヴィーザーの流れの双方を受け継いでいるといえようか。

### 学 派 の 周 辺

1890年以降には、ザックス、マタヤ、グロス、ツッカーカンドル、コモルチンスキー、R・マイヤー、R・シュラーなどのメンガーの弟子、あるいはメンガーの影響のみられる学者たちがさまざまな科目の講義をおこなっている。その中には、理論経済学にかかわるものだけでなく、社会政策、財政学、通商政策、交通政策等が含まれていて、オーストリア学派と経済政策の関連という点からみて興味深い。しかし、講義の主要な担当者としては、フィリップヴィッチが重要である。彼はもともと、シュタインから出発している社会政策推進論者であるが、理論経済学の領域についてはメンガーの理論をも取り入れ、一種のオーストリア的ミックスをつくりだした人物である。とくに、ヴィーザーとベームがウィーン大学に復帰するまでのあいだ、ウィーン大学の経済学関係の講義はメンガーとフィリップヴィッチ、それに統計学のイナマ＝シュテルネックによって支えられていた。

### 第3世代の登場

オーストリア学派第3世代は、ワルラス的一般均衡理論を受容して学派から離れたシュンペーターと学派にとどまったミーゼスによって代表される。シュンペーターの名は、1909年夏学期の「経済学入門」「科学的社会学」、同冬学期の「企業家と資本家」とともにみられるが、冬学期のそれは彼のチェルノヴィッツ赴任によっておそらく実現しなかったであろう。

6) E. Craver, "The emigration of the Austrian economists", *History of Political Economy*, Spring 1986, p. 12 を参照されたい。

7) L. Mises, *Notes and Recollections* (Translated by H. F. Sennholz), Libertarian Press, 1978, pp. 94-95.

8) F. Hayek, *New Studies in Philosophy, Politics, Economics and the History of Ideas*, 1978, p. 51 footnote.

ミーゼスは1913年冬学期から教壇に立っている。彼の講義も多岐にわたるが、なかでも「貨幣制度と銀行制度」「経済恐慌論」の講義タイトルは、彼の理論的探究の焦点と関連していて興味深い。なお、本人の回想にもあるように、彼は1923年冬学期を最後に講義をやめ、以後は演習のみをおこなった。

ヴィーザーを継いだマイヤーの名は、かなり遅れて第1次大戦後の1923年冬学期から登場する。彼は、「国民経済学」の主講義の他、「所得形成の理論」等の理論的講義を担当し、また演習でも帰属理論や経済分析における時間要素の問題を主として取り扱ったといわれる<sup>9)</sup>。

### ハイエク、モルゲンシュテルン、ハーバラーの活躍

1930年頃になると、しばしば、オーストリア学派第4世代といわれるさらに若い世代が登場する。その中には、シュトリグルやマールのようにナチス支配下もヴィーンに留まった学者も存在するが、ハイエク、モルゲンシュテルン、ハーバラーらは、ミーゼスとともに国外に去ることになる。この三人は、1929年冬学期から1931年夏学期にいたるまで合同演習を開催している。理論についての演習であったことを除けば、その内容は不明であるが、新進トリオによるこの演習が魅力あるものであったことは疑うことができない。

ハイエクは、1929年冬に「貨幣制度と銀行制度」というかつてミーゼスがデビューしたときと同じ題目で講義を開始し、1930年夏学期には「貨幣と景気」という題目で講じているが、早くも1931年冬学期には講義目録から姿を消す。モルゲンシュテルンとハーバラーは、ハイエクの渡英後も共同して演習を開いているが、講義としては、前者は「限界効用理論」「経済均衡の一般理論、とくに時間要素を中心に」といったように純理論的関心が強いものをおこない、後者は国際貿易の理論や政策についての講義をおこなっている。

また、この三人に比べるといささか地味ではあるが、『資本と生産』の著者であるシュトリグルの存在も重要である。彼は、理論経済学にかんする様々な演習を開催したが、そのなかにはモルゲンシュテルンとの合同演習も含まれている。

この時期の“戦間期オーストリアン”の理論的活動は、貨幣的景気理論の動向という

9) Craver, *op. cit.*, p. 11.

側面にとどまらず、一般均衡理論の批判ないし摂取・拡大や、経済政策との関連という面からも興味深いものである。これも、今後の解明がもたれる領域であるといえよう。

# 〔資料〕

……以下、Sは夏学期をWは冬学期を指している。ただし、冬学期は表示年の翌年までわたっている。

シュタイン Lorenz von Stein (1818-1890)

「国民経済学に基づく法哲学」……1861S.

「行政学」……1860W, 1861W, 1862W, 1863W, 1864W, 1865W, 1866W, 1867W, 1869W, 1870W, 1871W, 1872W, 1873W, 1875W, 1876W, 1877W, 1878W, 1879W, 1880W, 1881W, 1882W, 1883W, 1884W.

「財政学」……1861S, 1862S, 1863S, 1864S, 1865S, 1866S, 1867S, 1868S, 1869S, 1870S, 1871S, 1872S, 1873S, 1875S, 1876S, 1877S, 1878S, 1879S, 1880S, 1881S, 1882S, 1883S, 1884S, 1885S.

「国民経済学」……1860W, 1861W, 1862W, 1863W, 1864W, 1865W, 1866W, 1867W, 1868W, 1869W, 1870W, 1871W, 1872W, 1873W, 1875W, 1876W, 1877W, 1878W, 1879W, 1880W, 1881W, 1882W, 1883W, 1884W.

「国家学史」……1862S.

「法哲学史」……1863W.

「法哲学」……1865S, 1866S, 1867S, 1868S, 1869S, 1870S, 1871S, 1872S, 1876S, 1877S, 1878S, 1879S, 1880S, 1881S, 1882S, 1883S, 1884S, 1885S.

「行政法」……1868W.

「行政学の特定の部門」……1870S.

「法哲学とヨーロッパの国家史」……1873S, 1875S.

ヒンゲナウ Otto Hingenau (1818-1872)

「鉱業法」……1860W, 1861W, 1862W, 1863W.

「国民経済学」……1860W, 1861W, 1862W.

「原料生産の経済学」……1864W, 1865W.

「オーストリアの鉱業法、常に最近のドイツ鉱業法改正との関係で」……1864W.

「オーストリアの鉱業法, ドイツ, とくにプロイセンの鉱業法と常に比較しつつ」…  
…1865W.

「オーストリアの鉱業法」……1866W.

ハスナー Leopold Hasner (1818-1891)

「国民経済学」……1866W, 1867W.

「法哲学史」……1866W.

「法哲学」……1867S.

「財政学」……1866S, 1867S.

「行政学」……1866W, 1867W.

シェフレ Albert Schäffle (1831-1903)

「国民経済学」……1868W, 1869W, 1870W.

「行政学」……1868W, 1870W.

「行政学, とくに経済政策を中心に」……1869W.

「財政学と予算立法」……1869S.

「信用, 銀行及び通信制度」……1869S.

「貨幣制度と紙幣価値について」……1869S.

「財政学」……1870S.

「信用, 銀行及び株式市場について」……1870S.

メンガー Carl Menger (1840-1921)

「銀行制度と貨幣制度」……1872W, 1873W.

「国民経済学」……1873S, 1875W, 1876W, 1877W, 1878W, 1879W, 1880W, 1881W,  
1882W, 1883W, 1884W, 1885W, 1886W, 1887W, 1888W, 1889W, 1890W, 1891W,  
1892W, 1893W, 1894W, 1895W, 1896W, 1897W, 1898W, 1899W, 1900W, 1901W,  
1902W.

「財政学」……1875S, 1876S, 1877S, 1878S, 1879S, 1880S, 1881S, 1882S, 1883S,  
1884S, 1885S, 1886S, 1887S, 1888S, 1889S, 1890S, 1891S.

「財政学, とくにオーストリアの予算立法を中心に」……1892S, 1893S, 1894S,  
1895S, 1896S, 1897S, 1898S, 1899S, 1900S, 1901S, 1902S, 1903S.

「国民経済学と財政学のセミナー演習」……1875W, 1876W, 1877S, 1878S, 1879W,



1881S, 1882S, 1883S, 1884S, 1885S, 1886S, 1887S, 1888S, 1889S, 1890S, 1891S, 1891W, 1892S, 1893S, 1894S, 1894W, 1895W, 1896W, 1897W, 1898W, 1899W, 1900W, 1901W, 1902W.

ベーム-バヴェルク Eugen von Böhm-Bawerk (1851-1914)

「国民経済学」……1880S, 1905W, 1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1910W, 1911W, 1912W, 1913W.

「国民経済学演習」……1891W, 1892W, 1896S, 1905S.

「理論的国民経済学の主題についての演習」……1906S, 1907S, 1908S, 1909S, 1910S, 1910W, 1911W, 1912S, 1913W, 1914S.

ヴァーザー Friedrich Wieser (1851-1926)

「国民経済学」……1884S, 1903W, 1904W, 1915W, 1916W, 1917S, 1919W, 1920W, 1921W.

「共産主義と社会主義の歴史」……1884W.

「経済政策」……1903W, 1904W, 1905W, 1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1911W, 1912W, 1913W, 1914W, 1915W.

「国民経済学演習」……1904S, 1904W, 1906S, 1906W, 1908S, 1908W, 1912S, 1912W, 1914S, 1916W, 1917S, 1920S, 1921S.

「貨幣理論」……1905W.

「財政学、とくにオーストリアの予算立法を中心に」……1904S, 1905S, 1906S, 1907S, 1908S, 1909S, 1910S, 1911S, 1912S, 1913S, 1914S, 1917S.

「国民経済の社会的基礎」……1907W.

「社会と国民経済」……1908W, 1909W, 1912W.

「収入論と世界経済」……1920S.

「社会理論」……1922W.

「歴史における勢力」……1923W.

「現代における勢力機関と勢力闘争」……1924W.

ザックス Emil Sax (1845-1927)

「国民経済施策」……1875S.

「経済政策」……1875W, 1877W.

「国民経済の基本概念と基本関係」……1876S.

「経済政策を含めた国民経済学」……1876W.

「貨幣制度, 信用制度, 銀行制度, とくにオーストリアについて考慮を払い  
つ」……1878W.

「課税理論とオーストリアの税法」……1878W.

「国民経済学と財政学の基本概念と基本理論についての概要」……1879S.

マタヤ Viktor Mataja (1857-1933)

「アダム・スミス以来の国民経済学の歴史」……1884W.

「労働者保護立法」……1887S.

「税制」……1888S, 1888W.

「信用制度と銀行制度」……1885S, 1887W.

「社会政策演習」……1899W, 1900W.

「商業政策と関税政策」……1889S.

「社会主義の歴史」……1885W, 1886W.

「工場立法について」……1885W.

「商業政策」……1898W.

「国民経済学」……1886S.

「労働者災害補償保険」……1889W.

「営業政策 (Gewerbepolitik)」……1890S.

「統計学演習」……1916W, 1917W, 1919W, 1920W, 1921W, 1922W. (19W, 22Wは  
シフとの合同)

「一般的な比較統計とオーストリアの統計」……1917S, 1920S, 1921S, 1922S,  
1922W, 1923S, 1923W, 1924S, 1924W, 1925S, 1925W, 1926S, 1926W, 1927S,  
1927W, 1928S, 1928W, 1929S, 1930S, 1930W, 1931S, 1931W, 1932S, 1932W,  
1933S, 1933W, 1934S.

「統計学」……1919S.

グロス Gustav Gross (1856-1932)

「国民経済学」……1884S, 1885S, 1886W, 1887S, 1888W, 1891W, 1896S.

「交通制度」……1884W, 1886W, 1889W, 1891W.

「保険制度」……1892S, 1894S, 1896S.

「商業政策と営業政策」……1885W, 1887W, 1890S, 1893S.

「経済政策」……1894W.

「信用制度と銀行制度」……1886S, 1889S.

「国民経済学の歴史」……1888S, 1891S.

「国民経済学演習」……1888W.

「保険政策」……1897S.

コモルチンスキー Johann von Komorzynski (1843-1911)

「マルクス価値論の説明と批判」……1891W, 1892W, 1893W.

「銀行制度と信用制度」……1892S, 1892W, 1893S, 1894S, 1895S, 1896S, 1896W, 1897W, 1899W, 1901W, 1902W, 1903W.

「オーストリアにおける直接税」……1894W.

「資本利得の問題」……1895W.

「収入の理論」……1896W.

「価格の理論」……1897S, 1898S, 1899S, 1900S, 1901S.

「税改革の説明と批判的討議」……1898W.

「国民経済学の基本概念」……1904W, 1905W, 1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1910W, 1911W.

「オーストリアにおける個人直接税」……1900W, 1901W.

「国民経済学」……1901W.

ツッカーカンドル Robert Zuckerkandl (1856-1926)

「価値と価格、およびそれと関係する理論的原理」……1887S.

「国民経済学の歴史、重農主義者からリカードまで」……1887W, 1888S, 1888W.

「労働者保護立法」……1889S.

「商業政策、理論と歴史」……1889W.

「貨幣制度信用制度」……1890S.

「19世紀における商業政策」……1890W.

「租税の原理」……1891S.

- 「貨幣の理論」……1891W.
- 「貨金の理論」……1892S.
- 「銀行制度と信用制度」……1892W, 1896S.
- 「国民経済学演習」……1893S.
- 「経済政策」……1893W.
- 「農業政策と農業法」……1894S.

ロベルト・マイヤー Robert Meyer (1855-1914)

- 「租税 (Abgaben) の理論」……1884S, 1887S, 1889S.
- 「財政学」……1884W, 1885S, 1885W, 1887W.
- 「公債についての理論」……1886S, 1893W.
- 「税改革」……1895W, 1896S, 1896W.
- 「イギリスのいわゆる所得税体系についての説明」……1885S.
- 「国家財政と国家信用の制度」……1886W, 1890W, 1891W.
- 「信用制度と銀行制度」……1888S, 1894W.
- 「国民経済学の歴史」……1888W.
- 「公信用を含めた信用の理論」……1889W.
- 「財政学演習」……1902W, 1903S, 1903W, 1904S, 1904W, 1905W,  
1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1912W.
- 「統計学演習」……1910W, 1913W (10W, 13W はシフとの合同), 1914S.
- 「公債制度」……1912W.
- 「一般的な比較統計とオーストリアの統計」……1913S, 1914S.

シュラー Richard Schüller (1870- ? )

- 「商業政策」……1902S, 1903S, 1903W, 1904W, 1910W, 1919W, 1920S, 1921S,  
1922S, 1923W, 1927S.
- 「貨金」……1906W, 1907W.
- 「経済政策」……1927W, 1928W.

フィリップヴィッチ Eugen von Phillipovich (1858-1917)

- 「国民経済学の歴史」……1884W.
- 「貨幣と信用制度」……1885W.

「国民経済学」……1885S, 1893W, 1894W, 1895W, 1896W, 1897W, 1898W, 1899W, 1900W, 1901W, 1902W, 1903W, 1904W, 1905W, 1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1910W, 1911W, 1912W, 1913W, 1914W, 1915W.

「行政学」……1893W.

「財政学」……1894S.

「経済政策 第一部」……1894W.

「経済政策 第二部」……1895S.

「国民経済学演習」……1894S, 1894W, 1895S, 1895W, 1896S, 1896W, 1897S (96W, 97S はランデスベルガーとの合同演習), 1898S, 1898W, 1899W, 1900S, 1900W, 1901S, 1901W, 1902S, 1902W, 1903S, 1903W, 1905S, 1905W, 1907S, 1907W, 1909S, 1909W, 1911S, 1911W, 1913S, 1913W, 1915W.

「財政学, とくにオーストリアの予算立法を中心に」……1895S, 1896S, 1897S, 1898S, 1899S, 1900S, 1901S, 1902S, 1903S, 1904S, 1905S, 1906S, 1907S, 1908S, 1909S, 1910S, 1911S, 1912S, 1913S, 1914S, 1915S, 1916S.

「経済政策」……1895W, 1896W, 1897W, 1898W, 1899W, 1900W, 1901W, 1902W, 1903W, 1904W, 1905W, 1906W, 1907W, 1908W, 1909W, 1910W, 1911W, 1912W, 1913W, 1915W, 1916W.

シュンペーター Joseph A. Schumpeter (1883-1950)

「経済学入門, 初心者対象」……1909S.

「科学的社会学の生成とこれまでの成果」……1909S.

「企業家と資本家」……1909W.

「財政学の原理, ただし純粹に法学的な部分は除く」……1909W.

ミーゼス Ludwig E. Mises (1881-1973)

「貨幣制度と銀行制度」……1913W.

「商業政策についての諸問題, 入門講義」……1913W.

「信用銀行」……1914S.

「オーストリア＝ハンガリーにおける通貨と発券銀行, 1879年から今日まで」  
……1914S.

「経済恐慌について」……1915W, 1918S.

「国民経済学の特定の主題についての討議」……1915W.

「理論的国民経済学の主題 についての 演習」……1916W, 1917W, 1918S, 1918W, 1919S, 1919W, 1920S, 1920W, 1921S, 1921W, 1922S, 1922W, 1923S, 1924S, 1924W, 1925S, 1925W, 1926W, 1927S, 1927W, 1928W, 1929S, 1929W, 1930S, 1930W, 1931S, 1931W, 1932S, 1932W, 1933S, 1933W, 1934S.

「商業政策についての根本問題」……1917W.

「オーストリアの経済政策, 1866年から1914年まで」……1918S.

「オーストリアの社会的・経済的發展, 1815年から1914年まで」……1918W.

「理論的国民経済学についての諸問題, 入門講義」……1919W.

「経済と社会」……1922W.

「理論的国民経済学の根本問題」……1923W.

ハンス・マイヤー Hans Mayer (1879-1955)

「国民経済学」……1923W, 1924W, 1925W, 1926W, 1927W, 1928W, 1929W, 1930W, 1931W, 1932W, 1933W, 1934W, 1935W, 1936W, 1937W, 1938W, 1939W.

「国民経済学演習」……1923W, 1924S, 1924W, 1925S, 1925W, 1926W, 1927W, 1928W, 1929W, 1930W, 1931S, 1931W, 1932S, 1932W, 1933S, 1933W, 1934S, 1935S, 1935W, 1936S, 1936W, 1937S, 1937W, 1938S, 1939S, 1939W (39S, W は マールと合同).

「財政学, とくにオーストリアの 財政法規に留意して」……1924S, 1925S, 1926S, 1927S, 1928S, 1929S, 1930S, 1931S, 1932S, 1933S, 1934S, 1935S, 1936S, 1937S, 1938S, 1939S.

「収入形成の理論」……1926W, 1927S, 1928S, 1929S, 1930S, 1931S, 1932S, 1933S, 1934S, 1935S, 1936S, 1937S, 1938S.

「国民経済学必修演習 第一部」(マールと合同)……1933W.

「国民経済学必修演習 第二部」(バイヤーと合同)……1933W.

「ドイツにおける経済生活」……1938W, 1939W.

「国民経済学必修演習」(マールと合同)……1934W, 1935W, 1936W, 1937W, 1938W.

「国民経済学必修演習」(バイヤーと合同)……1934W, 1935W.

「国民経済学の基本概念についての入門講義」……1936W, 1938S.

- 「国家社会主義国家における経済計画 (Wirtschaftslenkung)」…… 1939S.  
 ヴァイス Friedrich X. Weiss (1885-?)
- 「限界効用理論の基礎づけがなされてからの価値理論の発展」……1926W.  
 シュトリグル Richard von Strigl (1891-1944)
- 「貨幣論・銀行制度論の概要」……1923W, 1925W, 1927W.  
 「貨幣理論の領域についての演習」……1925W.  
 「経済理論演習」……1923W.  
 「営業政策概要」……1924S.  
 「貨幣理論についての新文献論評」……1924S.  
 「国民経済学初級演習」……1924W, 1935S.  
 「国民経済学の歴史」……1924W.  
 「社会政策の理論と実践」……1925S.  
 「経済政策の一般的基礎についての論評 (応用オーストリア理論)」……1926W.  
 「理論経済学の主要問題」(モルゲンシュテルンと合同)……1934W.  
 「オーストリア理論の主要問題」……1926W.  
 「経済政策の問題」……1928W.  
 「経済理論の領域についての演習」……1927S, 1928S, 1929S, 1929W, 1933W, 1935W, 1936S, 1936W, 1937S, 1938S, 1938W, 1939W.  
 「労働市場分析と労働市場政策」……1930S, 1931S.  
 「経済理論の方法」……1930W, 1931W, 1932W.  
 「経済政策の基礎づけとしての理論の主要問題」……1932S, 1933S, 1934S.  
 「経済理論演習」(モルゲンシュテルンと合同)……1934S, 1935S, 1935W, 1936S, 1936W, 1937S, 1937W.  
 「国民経済学についてのコロキウム」(モルゲンシュテルンと合同)……1935S, 1935W.
- モルゲンシュテルン Oskar Morgenstern (1902-1977)
- 「国民経済学復習講義」……1929W.  
 「アメリカ合衆国の経済と経済政策」……1930S.  
 「限界効用理論, 入門講義」……1930W.

「理論的国民経済学の主要問題」……1931W, 1932W, 1933W. (32W, 33Wは、ハーバラーと合同)

「景気・通貨および中央銀行政策 (演習つき)」……1932S, 1933S.

「経済均衡の一般理論、とくに時間要素を中心に」……1933W.

「時間と経済均衡」……1934S, 1935S.

「景気理論と景気政策の概要」……1935W.

「概論 景気調査と景気政策」……1936W, 1937W.

「経済学の最近の発展について」……1936S.

「経済理論演習」(ハーバラー、ハイエクとの合同演習)……1929W, 1930W.

「国民経済学演習」(ハーバラー、ハイエクとの合同演習)……1930S, 1931S.

「経済理論演習」(ハーバラーとの合同)……1933S.

「理論経済学の最近の進展」……1934W.

「理論的国民経済学の主要問題」(シュトリグルとの合同)……1934W.

「経済理論演習」(シュトリグルとの合同)……1934S, 1935S, 1935W, 1936S, 1936W, 1937S, 1937W.

「国民経済学についてのコロキウム」(シュトリグルとの合同)……1935S, 1935W.

ハーバラー Gottfried Haberler (1900- )

「国際貿易理論」……1929W.

「経済理論演習」(モルゲンシュテルン、ハイエクとの合同演習)……1929W, 1930W.

「国民経済学演習」(モルゲンシュテルン、ハイエクとの合同演習)……1930S, 1931S.

「国民経済学の特定の主題について、演習つき、初級演習を兼ねる」……1930S, 1931S.

「国際貿易理論と貿易政策理論」……1930W.

「理論的国民経済学の主要問題」(モルゲンシュテルンとの合同)……1932W, 1933W.

「財政学の主要問題」……1933S.

「経済理論演習」(モルゲンシュテルンとの合同)……1933S.

「貨幣理論と通貨政策」……1933W.



ハイエク Friedrich A. Hayek (1899- )

「貨幣制度と銀行制度」……1929W, 1930W.

「経済理論演習」(ハーバラー, モルゲンシュテルンとの合同演習)……1929W, 1930W.

「景気と貨幣」……1930S.

「国民経済学演習」(ハーバラー, モルゲンシュテルンとの合同演習)……1930S, 1931S.

「貨幣制度と銀行制度, 第二部(貨幣政策)」……1931S.